



## 地域おこし協力隊活動報告

金山の里・大ヶ生地域における  
山里暮らしの継承支援

大ヶ生地域担当 山代森



## 自己紹介

山代 森 やましる もり

1997年宮古市（旧川井村）出身。  
高校進学を機に岩手県を離れ、島根  
県、山形県、東京都での生活を経て、  
8年ぶりに盛岡市へ。



## 大ヶ生地域について

盛岡市内から車で30分、15キロほど離れた山に囲まれた小さな集落。上大ヶ生と下大ヶ生、二つの自治会があり世帯数は合わせて150ほど。



## こあらかまどについて

築百年ほどの南部曲がり家。  
活動拠点であり生活の拠点。  
屋号の由来は初代協力隊と一緒に暮らしていた猫「こあら」の様な存在にしたい、という思いから。  
「かまど」は分家のこと。



## 1年目の活動

(令和3年10月～令和4年9月)

挨拶回り

農作業支援

生活支援

大ヶ生山伏神楽

シナノキ樹皮採取

各地域行事参加

映画上映会開催

地域の記録撮影

消防団へ入団

冊子おおがゆう作成

雪あかり開催

狩猟免許取得

野菜栽培

チェーンソー講座

機織教室参加

特産品の販売PR

こあらかまど催物

記念行事活動発表

地元情報誌へ連載

県外視察など…



## 2年目の活動

(令和4年10月～令和5年9月)

農作業支援

生活支援

大ヶ生山伏神楽

シナノキ樹皮採取

各地域行事参加

映画上映会開催

地域の記録撮影

狩猟

冊子おおがゆう作成

雪あかり開催

他地域協力隊と交流

味噌づくり…

中型自動車免許の取得、

イベントでの特産品販売なども今後

検討中。



## 農作業支援

大ケ生地域にはお米、キュウリ、りんご、牛の繁殖農家さんが多く、それぞれの農家さんから季節ごとの仕事を通年で教えて頂く。ネギや茗荷の収穫、ダリヤの球根掘りのお手伝いも。



## 生活の支援

薪割り・雪掻き・雪下ろし・煙突掃除・草刈り・庭木の剪定・買い物代行など…

高齢者のお一人暮らしの方も多くなか、小さなこと、細やかな事でも力になれたら。





## 郷土芸能の継承

大ケ生には高江柄念仏剣舞、大ケ生高館剣舞、城内さんさ踊り、そして大ケ生山伏神楽と現在四つの郷土芸能が伝わる。神楽はこれまで、郷土芸能フェスティバルなどに出演し、3演目を習得。現在、8月15日の上大ケ生板橋神社例大祭に向け特訓中。

Japanese folk performing arts 東北文映研ライブラリー映像館  
「大ケ生山伏神楽「御神楽」(2022度もりおか郷土芸能フェス)」より  
<https://www.youtube.com/@Tohokubuneiken>



## シナノキの樹皮で機織

冬の農閑期は農作業もひと段落。  
身近に素材から採れるもので、冬の  
手仕事ができたら。  
昨年夏に樹皮を採取。この春ようやく  
布を織り始める。



## 地域行事への参加

地域に住んで暮らすという事は、  
地域の一員になるということ。  
公民館役員会への参加、地区の草刈り、  
側溝掃除、登山道の整備…。  
道での立ち話も大切な仕事。ここから  
新たな発見や出会いも広がる。



## 映画上映会開催

一年目の着任当初、自己紹介も兼ねて地元が題材となったドキュメンタリー映画を上映。  
二年目の去年は、活動の一つでもある「植物繊維から布を織る」ことをテーマにした作品を上映。



## 地域の記録撮影

各家で伝え続けられている、郷土食やお正月飾り、お盆行事。それらは、「大ケ生らしさ」の重要な一つである一方、生活習慣の変化や高齢化により、年々無くなりつつある。全てを継承することは出来なくとも、今ある景色を写真で残せたら。



## 狩猟免許の取得

昨年秋に罠の免許を取得。  
今期捕獲できたのは1頭のみだったが、罠の設置から解体そして調理まで、一連の流れを経験できた。



活動期間も折り返しへ



大ケ生のあちこちで縄文土器が当たり前のように出土します。それは四千年以上も前からこの地に人の営みがあった証。





通勤、通学、交通の便が良いとは決して言えませんが、人が生きて暮らしていく「きほん」のようなものが残っているように感じています。



お米、野菜は家の前の田畑から。  
台所には沢水や井戸の水が流れ、  
山の木が、お風呂や薪ストーブの  
燃料となります。  
今の時代よりむしろ豊かで最先端  
の暮らし方かもしれません。



そして、気づけは自分自身が、  
地域の皆様から沢山のことを教え、  
助けて、協力してもらっています。



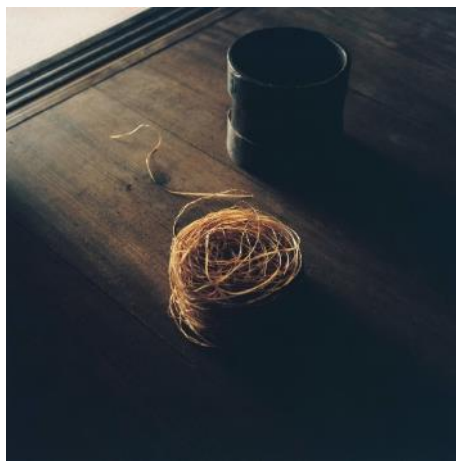
大ケ生に移住して一年と半年。  
まだまだ新参者ですが、これからの  
一年半は地域に根差した二つの  
活動を中心に。



山から採った糸で布を織る



古くから東北地方の生活の中で使われてきたシナノキの樹皮繊維。樹皮から糸を採るまでを体験するワークショップや、織り上げた布の製品化も進める。





## 大ケ生の人と暮らしを記録する



芸能や農産物、歴史ある暮らしの形や、心とお風景は地域の魅力ですが、それらは大ケ生に地域の皆さんが暮らして居るからこそ。一番の魅力は「一人ひとりの人」です。



3年の任期が終わる秋、写真展の開催を目標に、日々の活動の中で地域の人と風景を写真に収めていく。



ご清聴ありがとうございました